

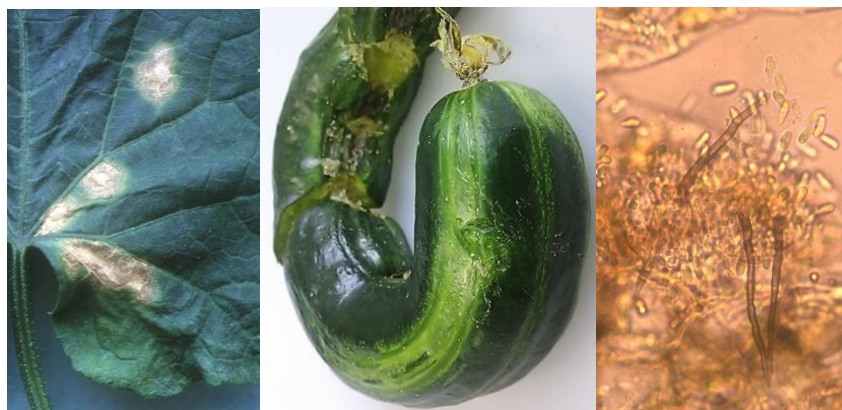
病斑がよく似ているキュウリ葉の病害



1. キュウリ褐斑病

葉には円形の小さな斑点を生じ、拡大すると不整形～葉脈に囲まれた角型病斑になります。病斑の葉裏に生じる黒いカビが特徴です。

葉裏にセロハンテープを押し当てて移しとると、長く直線的に伸びた分生子柄と、棍棒型の大きな分生子が見られます。



2. キュウリ炭疽病

葉に黄褐色円形病斑を生じます。太い葉脈に遮られ一部直線的、角形に見えることがあります。

茎には紡錘形病斑を、果実には円形～楕円形の陥没病斑を形成し、奇形になることもあります。

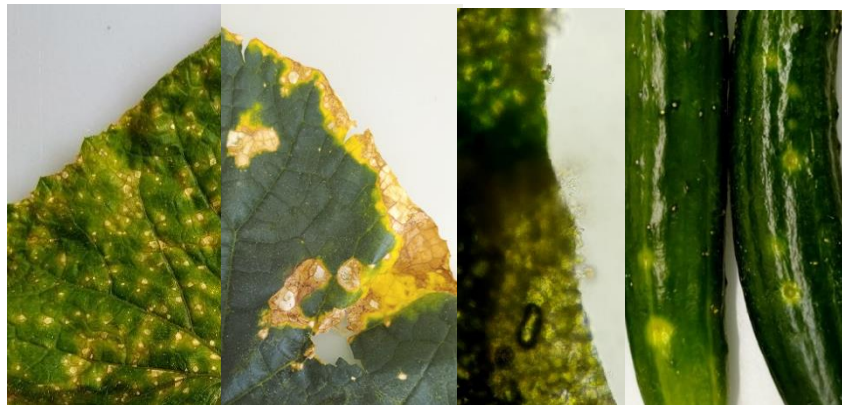
鮭肉色の分生子塊を生じる分生子層に黒褐色剛毛があります。



3. キュウリべと病

葉に葉脈に囲まれた多角形、黄色の病斑を生じます。病斑の葉裏に薄ネズミ色のカビを生じます。

葉裏にカビを生じる角形病斑は、褐斑病に似ていますが、カビの色が異なり、セロハンテープを押し当てて移しとると、樹枝状の分生子柄と淡褐色、卵形の分生子が見られます。



4. キュウリ斑点細菌病

葉の黄褐色角型病斑は褐斑病、べと病に似ていますが、葉裏にカビは無く、古い病斑は、薄く破れやすくなるのが特徴です。病斑内の葉脈は褐変しており、褐変葉脈から菌泥が出てきます。

果実には黄緑色陥没病斑を生じます。陥没の中央部から白色菌泥が出てきます。